

「住まい・まちづくりセミナー」報告と「やまぐち近代建築ノート」発刊

まちづくり委員長 原田正彦

■「住まい・まちづくりセミナー」報告

(一財)山口県建築住宅センターは、2010年から「住まい・まちづくりセミナー」を毎年開催しています。2020年春からは新型コロナ対策で休止してきましたが、本年2月28日(金)、ようやく5年ぶりに開催することができました。会場は山口県旧県会議事堂議場で、「公開イベントがつなぐ建築と市民」をテーマとしたメイン講師は、大阪公立大学大学院工学研究科の倉方俊輔教授。コロナ前から講演をお願いしていた先生で、早稲田大大学院卒の建築史家、53歳。講演の冒頭、「山口に講演で来るまで5年もかかりましたが、この間多くの建築イベントの実績を積んだので、皆さんにより多くのお話ができます。」との言葉通り、その講演内容には圧倒されました。「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪」(イクフェス大阪/2014年)を始め、「神戸モダン建築祭」(2021年)、「京都モダン建築祭」(2022年)、更に「東京建築祭」(2024年)等の大規模イベントの報告が中心で、東京建築祭は何と65,000人が参加されたとのこと！これら建築イベントを通じて、地域に根差したまちづくりや建築文化の創造を行われてきたことに非常に感銘を受けると共に、ここ山口での実施可能性をも感じさせる力強いメッセージを受け取りました。

また、建築祭実行委員長として多くの建築業界を取りまとめた経験や、ご自身の住まわれる安藤忠雄設計のガラスブロックの家(1972年)をガイドツアーする取り組みなどの苦労話も交え、「市民が日常的に建築に親しむ環境をつくり、プロの仕事が建築や都市を支えていることを幅広い層に知ってもらうことの大切さ、そしてそれにより私たち建築士もまちづくりに向けてより良い仕事ができるようになるのではないだろうか」と結ばれました。



▲住まい・まちづくりセミナーで講演される倉方先生

なお、前座として私は「山口県内近現代建築見て歩き」と題して、山口県での町歩き事例、「下関市の日本遺産・



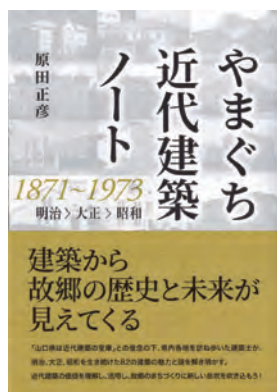
▲東京建築祭2024より

関門ノスタルジック海峡、「山口市旧市街の近代建築と萩往還」、「宇部市の村野藤吾の建築遺産巡り」を紹介しました。

建築士や学生ら約50名の参加者にも楽しく、また非常に有意義な講演だったのではないかと思います。倉方先生、本当にお疲れ様でした。この5月に行われる東京建築祭も頑張ってください！

■『やまぐち近代建築ノート』を出版しました！

このセミナー内でも、少しPRさせていただきましたが、このたび、2020年4月から3年9ヶ月にわたって山口新聞に連載した「やまぐち近代建築ノート」を編集し直し、『やまぐち近代建築ノート』を自費出版いたしました。A5版、198頁／(株)マル二発行／税込1,650円です。明治、大正、



昭和と生き抜いてきた県内82の近代建築・近代化遺産を、建設年代順に写真と文で紹介しています。(一社)山口県建築士会にて直接購入するか、メール(info@y-shikai.or.jp)にてお申し込み下さい。送料は無料です。



▲「やまぐち近代建築ノート」より